

# 三角祭祀線「しくみ」の作り方と意味

## 1. 概要 神のすり替えと配置

おそらく、自然のパワースポットを聖地としていた縄文時代の日本に、古代の支配者たちは、自分たちの祖先神を祀り、あたかもその土地の神と偽り民衆に信仰させ、その祀り神の力を高めさせたのだと思います。そして、全国津々浦々の自然聖地の気と、配置した神社に集まった気を、支配族たちの拠点に集中させ力として利用してきたのです。

気を移すには、他所に配置した神々と、正確なピンポイントで二等辺三角形につなげる方法が使われました。私が「しくみ (493)」と呼んでいるそれらの二等辺三角形は、大きく広域的な三角形に、村内にあるような小さな三角形がフラクタルに網目のように繋がられているのです。そして、その三角形の向きや形状により持つ意味は違うようです。この「しくみ」は、時代ごとに支配する氏族により修正されたり壊されたりしています。現代においても、神社のみならず人の集まる人気の場所をつなげることにより利用されています。しくみ=支配ツールと考えます。

## 2. しくみの作り方と種類 (推測)

### a. 直線型 (レイライン)

目的/ 気を引く

神の気はまっすぐ流れる。気を引きたい自然聖地や神社仏閣をつないだ延長線上に新しい神社を配置する基本のしくみ。あるいは、その間の線上に割り込ませる。それらは、すべてピンポイントで繋がる。自然聖地なら山頂や岩座、中州や湖沼なら中心、神社なら本殿や奥の院。境内社につながる場合もある。

右図は早池峰山・大朝日岳・大沼浮島が、諏訪を通して伊勢につながるレイライン。伊勢の多くの神社が鬼門方角の早池峰・大朝日岳・大沼浮島・諏訪の気を引いて配置されたことがわかる。

一例として下図は、大朝日岳山頂から何百キロも離れている伊雑宮（遷宮するので間にポイントを置いた）に線を引くと、諏訪の千鹿頭神社の本殿を貫いている。別の線だが、春宮の本殿、浮島の中心、とても小さな浮島社も、きちんと線上に乗っている。



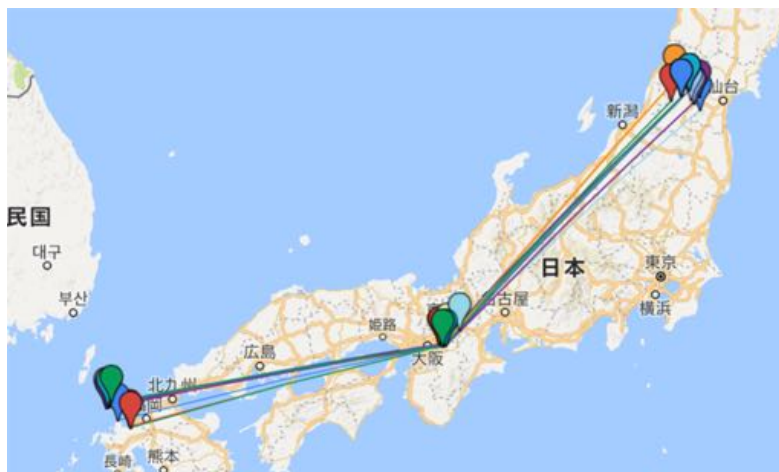
## b. 引き寄せ型



目的/聖地の気を「引き寄せる」「送り込む」

レイラインが直列式だとしたら、こちらは並列式。聖地からの同じ距離に神社を置くことにより、気を引き寄せることができる。上図は、伊勢神宮の気を皇居の宮中三殿に引くために御所や靖国神社を同距離に配置している。同距離の神社仏閣が多いほど受信力も高い。宮中三殿は7つの寺社を同距離に置いて気を引いている。もちろん逆に送り込むこともできる。

## c. 中道型



目的/左右両極の神から気をもらい護られる

140度くらいの開きで両極をピンポイント同距離にして気を引き護りとする基本的なしくみ。御所や城、神社仏閣など、支配者の拠点によく使われている。真ん中で生きる中道・中庸の教えに似ている。真ん中にいると特別な力を使える。シンメトリーな建物も同じ意味。なんとなく平和なイメージがある。地図は、出羽と壱岐の神々に護られる平城宮。

ただし、神事しだいで両極からやられる場合もある。

菅原道真怨霊 vs 藤原家がその典型。

太宰府（左遷された道真） → 平安京 ← 大朝日岳（都落ちして山形にきた道真側室一党）

#### d. ピラミダル二等辺三角形型



目的/ 抑え付けて気を封じる、引きよせる

頂角が90度前後、底角が45度位の三角形。頂角に天孫族系の武神など強い神を置き、左右の底角に蝦夷・出雲族系の神を置くパターンが多い。頂角を「勝ち角」底角を「負け角」と呼んでいる。上から両底角を抑えつけている。ピラミッドの角度に近いのでは。左上図は、鹿島神宮が戸来と丹後を、香取神宮が、大朝日岳・大沼浮島と御嶽山を封じているのが分かる。右上図は串本の神々が、大国主命の出雲、手長足長神・建御名方富神の諏訪を封じ、夷隅の神々に猿田彦時代の伊勢の神々と大朝日岳・大沼浮島が封じられている。ただし、頂角から見て左負け角の神社は、やや頂角の支配者に近い存在、あるいははじめに支配された神のような気もする。次に紹介する十字架封印では、この底角の神を脇侍神としてさらに強い封じのしくみとして利用している。

#### e. クロス十字架封印型



目的/封印して気を引き寄せる

a, b, c, d型の複合系。十字架と似ている。主角の神が、抑え付けた底角の二神を脇侍にして、遠方の神を封じて弱らせ、気を引き寄せる。少し怖いしくみに思える。もともとあったb. 引き寄せ型にくっ付けられてしまうパターンもあるようだ。図は、主角の羅漢寺が左右脇侍角の冠島や神島を使って早池峰山に十字架を突き立てている。原始キリスト教が日本の神仏のルーツとすれば、キリストを呪いの十字架で封印したように、地上の十字架で封印するしくみに使われていてもおかしくない。

## f. 桃太郎封印型



目的/やっつけて護りにする最強の「しくみ」

a, b, c, d, e, fの複合系に方位が関わる。桃太郎（宝珠）は、猿（申）・鳥（酉）・犬（戌）を子分に、牛（丑）のつのと虎（寅）のパンツを履いた鬼をやっつける。下図は平安京大極殿のしくみだが、申酉戌の方角の神社を使って鬼門の大朝日岳（出羽）をやっつけているのがわかる。申の方角にある日吉神社は、まさに猿田彦神が祭神。鬼ヶ島は蝦夷の東北。

吉備団子は、近畿から九州の猿神に交渉に行くときに途中の吉備で買った手土産か（笑）いや、丹後の出雲族系の鬼をやっつけたしくみが岡山を起点にあるのかもしれない。

## 3. 神楽を舞う（神事）

目的/しくみ「カバラ」を作動させる

ハードの三角祭祀線「しくみ（カバラ）」を目的どおりに動かすのが神事の神楽「カグラ」ではないだろうか。かぐら・かばらの響きが似ている。きっと時代ごとにいた「カバラ使い」の聖人達が、弟子達（宮司、修験者、陰陽師）を育て神楽や特別な祝詞による神事を教え、代々神社を護らせていたのだと思う。たとえば、古事記の神話などが演じられるものは、祀っている神様（モンスター）に、やっつけるべき相手は誰かを教え、信じ込ませる意味があるのではないだろうか。

※カバラ使いだと思われる役の小角（円の小角）や円仁は、コンパスを使えたから名前に円を用いたのではないだろうか。

ちなみに、菅原一族もカバラ使いだったとされる。誰かのサイトで見たが、菅原=カンバラ=カバラなのだそう。道真怨霊が落としている雷が菅原家所領の桑原には落ちなかったので呪文になった「くわばら、くわばら」は「かばら、かばら」。本当の桑原ではなくカバラ（しくみ）で護られた神社仏閣には落ちなかったということだろう。

道真亡きあと、藤原家を呪う為に、それまで都を護るために菅原家が作ったカバラ（しくみ）を逆に使い、大宰府と出羽から京都を襲った。そうするための特別な神楽（神事）もあるのではないだろうか。

以上の技や意味、そしてこれから紹介するカバラのしくみと見解は、勝手な私の妄想です。古代史に詳しい方がこのしくみを見れば、本当の意味が見えてくると思います。真実の歴史を探る皆さんの一助となれば幸いです。

紹介するしくみは、ほんの一部です。皆さんも、気になる神社仏閣や得意な時代を、下記の無料地図ソフトを使って調査なさってください。くれぐれも祭祀線はピンポイントで繋がります。

#### 使用した地図サイト

##### ・ Googleマップ

直線と距離と現地を写真や地図を使って確認、記録できます。

<https://www.google.co.jp/maps/>

##### ・ 福島第一原子力発電所からの距離マップ

円形に広がるコンパス地図。同距離の聖地を探せます。航空写真や地形図もあるので神社の本殿や山頂を探すのも便利です。ただ、航空写真はずれている場合が多いのでピンポイントの位置そのものは地図で探しました。ただし、10m単位なので間に位置する場合は5m増やしたり減らしたりして判断しました。どなたかもっと繊細な1m単位のコンパスソフトを開発して、私の見つけた「しくみ」を検証していただけたら幸いです。

[http://www.benricho.org/map\\_fukushimagenpatsu/](http://www.benricho.org/map_fukushimagenpatsu/)

##### ・ 地理院地図

住宅地図なので、グーグルマップで表示されない建物を確認できます。

<http://maps.gsi.go.jp/>